

# 調査・研修等計画届出書

令和 4年 9月26日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫 ㊟

政務活動 として、下記のとおり調査・研修等を実施いたします。

## 記

|  |   |         |
|--|---|---------|
| 期 日  | 令和 4年10月13日から10月14日まで（1泊2日）   |         |
| 調査先・研修名                                    | 長崎県長崎市（第84回 全国都市問題会議）   |         |
| 会場名（会場所在地）                                 | 長崎県長崎市 出島メッセ長崎  |         |
| 調査・研修の目的<br>（今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて） | 第84回 全国都市問題会議<br>個性を活かして「選ばれる」まちづくり<br>～何度も訪れたい場所になるために～<br>第1日 10月13日（木）<br>基調講演・主報告・一般報告3件<br>第2日 10月14日（金）<br>パネルディスカッション・行政視察 |         |
| 議長名の依頼                                     | 要・ <input checked="" type="checkbox"/> 不要   | 依頼先（名称） |
|  |   |         |
| 同行者名                                       | 山田治義・宮菌伸仁・高島淳・柴田利勝・三木雪実<br>長江公夫・戸田由久・富田宗一・小沢勝・西本潤・朝井賢次  |         |

※行程表を添付してください。

# 調査・研修等報告書

令和 4年 11月 7日

瀬戸市議会議長 様

議員名 長江 公夫 ⑩

政務活動として、下記のとおり調査・研修等を実施したので報告します。

記

|   |  |
|---|--|
| 期 日   | 令和 4年 10月 13日から同年 10月 14日まで (1泊2日)   |
| 調査先・研修名   | 長崎県長崎市(第 84 回 全国都市問題会議)  |
| 会場名(会場所在地)  | 長崎県長崎市 出島メッセ長崎   |
| 調査・研修の目的<br>(今回の調査・研修に係る瀬戸市・自己の現状と課題を踏まえて)  | 第 84 回 全国都市問題会議<br>個性を活かして「選ばれる」まちづくり<br>～何度も訪れたい場所になるために～<br>第一日目 10月 13日(木)<br>基調講演・主報告・一般報告三件<br><br>第二日目 10月 14日(金)<br>パネルディスカッション・行政視察(長崎の歴史) |
| 調査先の事業の現状・課題 / 研修で学んだこと・キーワード等  |  |
| ・基調講演 「民間主導の地域創生の重要性」<br>(株)ジャパネットホールディングス代表取締役社長兼 CEO 高田旭人<br>1. ジャパネットと地域創生<br>・通信販売事業は「見つける」「磨く」「伝える」の三つの事業方針で運営しており、この三つの事が基本的な考え方のベースになっている。<br>・地域創生に取り組む契機は、「Vファーレン長崎」の運営を始めて、地域を盛り上げていきたいと考えるようになった。<br>・スポーツやまちづくりにおいても、上記の事業方針を活かすことができると考え、地域の魅力的な資源を見つけ、それを徹底的に磨き上げ、全国各地の人々に伝えていくことで、長崎の活性化に貢献できると考えている<br>・「長崎スタジアムシティプロジェクト」は 2024 年の開業を目指している。 |  |

## 調査・研修の成果・考察

(瀬戸市への反映・自己の能力開発への寄与等)

・「選ばれる場所」になるために様々な課題が披瀝されましたが、その中で「人のレベル」を上げていくということが取り上げられました。具体的にどのように人のレベルを上げていくのか、その意識のレベルをどのように捉えていくのかをつねに問い続ける必要があると思います。

・地域の課題解決のために、地域の様々な団体が活動されていますが、どこも担い手の問題を抱えています。今回の関係人口の増加がその一助になればとも思いますが、どこかで接点を見出し、地域の維持に役立ってもらおう仕組みと仕掛けを作る、それが行政の仕事かもしれません。そこに住んでいない人にも何を担ってもらうのか、地域住民にとっては関係人口とは何かを理解してもらう必要があります。

・何度も訪れたい場所とそこで何かの活動をしようとするのが両立するためには、自らが必要とされている証が必要であろうと思います。その契機を得るための取り組みを行政として考えることが必要です。

・今回の研修での、「行政の公平性・・・本当に公平になっているのか・・・一部の人のだけのものではないという」言葉がとても記憶に残るものとなりました。

2. 行政と民間の役割の違いについて。

・長崎を盛り上げるための手段や役割は大きく異なる・・行政は公平性への配慮のため本当に何が必要であるのかがぼやけてしまう可能性があるが、民間企業の役割は「幸福の最大化」であり、最短の意思決定で取り組むことができる。

3. 長崎スタジアムシティプロジェクトの目指すところ。

・県内の人口が増加し、出生率も上がり、地域経済も良い方向へ働き、地域への誇りや自分自身の幸福度も上昇する姿を目指すものである。

・民間企業としてリスクを取り本気で進めることで、「地方」でも出来るんだという実績をつくり、他の地域にもそれが波及していく世界を築きたい。

4. 行政に期待すること。

・「地域を活性化させる」という同じゴールの絵を持って、一緒に理想の地域創生を実現したい。そのためにも様々な地域と共に取り組むプロジェクトを始めている。

・主報告 「長崎市の魅力あるまちづくり」

長崎市長 田上富久

1. わがまちの価値とは・・・4つの視点からまちの価値を見直す取り組みを進めている。

(1) 価値を見つける(発見)・・・身近にある特別な価値が見えていなかったものでも、見る角度を変えることで、新たな価値が見つかることもある。

(2) 価値に気づく(認知)・・・特別な何かを作るのではなく、暮らす人にとっては身近にありながらも、気づいていない価値に気づくことで、まちの愛着に繋がる。

(3) 価値を磨く(向上)・・・景観は暮らす人にとっても訪れる人にとっても大切なものとなり、まちの魅力向上につながることに資する。

(4) 価値を生み出す(創造)・・・これまでネガティブに捉えられていた地域課題をポジティブに捉えなおすことにより地域活性化につながっていく。

2. 交流は欠かせないものである。

「土の人」と「風の人」がともにまちを感じ、交流することにより、暮らしている中では見つけにくいその都市ならではの新たな価値が見つかり、磨かれて、まちの価値が作られていく。

・一般報告

1. 「地域との新しい関わり方・関係人口」

島根県立大学地域政策学部准教授 田中輝美

(1) 関係人口・・・短期間の交流や観光という関わり方ではなく、長期間暮らし続けるといふ定住という関わり方でもない、その間にある新しい地域との関わり方である・・・若い世代との相性が良いというのが重要なポイントである。

(2) 若い世代と関係人口。

・鳥取市「もちがせ週末住人の家」・・・空き家をゲストハウスにして、週末だけで120人の登録がある。

・雲南市「草刈り応援隊」・・・年に三回で、50人ほどが集合し、地域住民と交流

(3) 何故、若者が来るのか。

・名前を呼べる規模で、量より質を大切にする。

・お客様は神様ではない。

・ストーリーが必要である。

(4) 選ばれるためには。

・人口が減って、地域が開放的になった・・・受け入れに抵抗感がない。

・つながりを求めている・・・ただいま、おかえりの関係をつくる。

・観光以上、定住未満・・・固定的に考える必要はなく、第三の選択肢である。継続的に地域に関わる若者が加わり、住民・観光客・関係人口の三本柱と考えてはどうか。自らの課題や状況を把握することなく、必要とされる関係人口像も見えないまま、とりあえず関係人口を呼んでくればという感覚に陥っていないか。

## 2. 「ビジョンを活かしたまちづくり～選ばれる山形市を目指して」

山形県山形市長 佐藤孝弘

(1) 健康医療先進都市・・・歩くことをベースにした健康で暮らしやすい「ウォーカブルなまちづくり」を目指す。

・公共交通を充実して、それが徒歩を補完する・・・タクシーを活用したコミュニティ交通や自転車の活用・・・自動車に頼らなくても生活ができるまちづくりを進めている。

(2) 文化創造都市・・・推進条例を制定し、拠点施設(キューイチ)をオープンして、地域経済の発展と中心市街地の活性化に繋げていく場所とする。

・「やまがた秋の芸術祭」では多くの人に関わってもらい、歩くことを促す試みとしている。

## 3. 「交流の産業化」を支える景観のまちづくり～長崎市景観専門監の取り組み

一般社団法人地域力創造デザインセンター 代表理事 高尾忠志

(1) 長崎の街づくり戦略・・・暮らしと経済を支える新しい産業を確立し、持続可能な地域社会と地域経済を構築するために、観光交流産業を新しい基幹産業として位置付ける・・・「オリジン」を「オリジナリティ」に育て上げる。

(2) 景観専門監・・・あらゆる部局の事業を監修する庁内監修者であり、個々の公共事業によってまちに価値を創造する事を使命としている。

・・・については長崎市民の生活の質を向上させ、まちへの愛着・誇りを育てるきっかけにならないか、ここに来てよかったと思ってもらう体験の創出に貢献する。

- (3) 景観専門監は価値創造に向けたデザインマネジメントを行う役目を担う。
- ・事業の縦割り、事業間の調整を行う・・事業の最適化を目指して事業間の調整をする役割を担う。
  - ・長期にわたる事業に一貫して関わる・・ビジョンを念頭に置いて現場での微調整を積み重ねる地道なデザイン調整が全体の質を向上させる。
  - ・職員の日々の業務に伴走する「家庭教師」のような存在として、担当者の検討案に対して、専門監が「問い」を投げかけ、担当者がより良い答えを見出すプロセスを踏んでいる・・「当たり前のこと」をきちんと丁寧にやるためにこそ、「問う」存在が必要である。

#### 4. パネルディスカッション 個性を活かして「選ばれる」まちづくり

～何度も訪れたい場所になるために～

- (1) ①幸せ ②活動プロセスを楽しむ ③自治体がどうかかわってゆくのか。

・それぞれのパネラーの実例等の紹介があった。

(野田)「くもせんにんプロジェクト」・・サロンを開いて参加者の人柄を聞くことで、知っているようで知らないことが多いのに気が付く。また「プル博」では、参加者が自分のできることを考える場となっている。

(田中)ワーケーションはまちづくりの解決に役立つもので、働く環境を変えるものである。

(桐野)「さるく博」は市民が主体のまち自慢が自分たちのまちを振り返るチャンスとなった。住民にとっては何かをやりたい契機となり、そのやっていることを行政が認めてあげることである。

(都竹)「ひだ市民クラブ」楽天 Edy 付きの会員証を交付し、ファンの集いを開催している。ふるさと納税も増え、それを財源にクーポンを発行する。「ヒダスケ」は困りごとに手助けをするという取り組みで、手助けすることが楽しみや面白さに繋がっている・・人口減少は地域課題の解決につながるものであり、「困りごと」は地域資源に変えることができる。

(藤原)伊丹は清酒発祥の地で日本遺産である・・地元出身の PR 大使もいて、イメージアップと PR 戦略を進めている。

- (2) 自治体の求められる役割とは。

(野田)人のレベルを上げていくために、行政マンがやり過ぎてもいけないので、黒子に徹していく。

(田中)街じゅうサテライトオフィス計画はクラウドファンディングで資金を集めており、選ばれるコミュニティを目指している。

(桐野)自ら出かけていくことの大切さを実感する事。

(都竹)人との交流を求めている・・話し合う場を設けて、失敗を重ねていくことで解ることが多くある。

(藤原)隈研吾氏による ZEB 庁舎が来年完成するが、どのようにデジタル化を

図るのかというのも一つの解決策である。

(3) 何度も訪れたい場所になるために。

(野口)お互いが育ちあっていくような関係性を築いてゆく・・街づくり団体等の交流を実現していくことが大切である。

(都竹)良いところを見つけていくと、そこにつながるカギがある・・地域活動に喜びを見出し、そこに若い人に参加してもらおう仕組みが必要である。それには、地域活動のデジタル化・・業務を簡素化して負担感を取り除いてゆくことで、他の活動にエネルギーを振り向けていく。

(藤原)何度も訪れたいと思うには自己有用感が必要であり、人の役に立っているという喜びによって自己存在感を持てるようにしていく。

(4) まとめ

(大杉)まちの「みなと」をどのように開いていくのか・・そこを磨いてほしい。そして行政の公平性については、本当に公平・公正になっているのか・・一部の人だけのものではなく、今そして未来の公平をしっかりと考えてほしい。

調査先（主な質疑・応答内容） / 研修（受講後の感想）

(所感)

1. ジャパネット高田社長

・地域に根差した企業として、ひとつの大きな理想を追いかけるプロジェクトを進める・・自らの利益追求と地域の中での持続可能性をどのように両立させていくのか、非常に楽しみなものであり、行ってみたい、何度も行ってみたいと思わせるものになることを期待しています。

・地域全体の幸福量をあげていくために、地域と共に取り組むプロジェクトを実施している・・そこに行政として、どのように関わっていくのか、ひとつの企業との協働の成果をどのように生み出すのかが課題であると思います。

2. 田上市長

・都心部のレベルを落とさずに、周辺部をラインで結ぶネットワーク型コンパクトシティを目指すものとされており、坂道の多いまちでどのように実現されるのか具体的な取り組みはどのようなものであるのか、またネガティブな課題をいかにポジティブに捉え直すかを我々も考える必要があるものと思いました。

・「天のとき、地の利、人の和」という言葉が非常に印象的でした。

3. 田中准教授

・関係人口に選ばれるためには、人との関わりを重視する必要があるとのことであるが、地域との関わりを持ち方をどのように工夫するのか・・移住ではな

い人をどのように迎えるのか・・・また役目を終えれば、帰っていく人でも良いとする気持ちを地元住民が持つことは難しいことではないかと思えます。

#### 4. 佐藤市長

・「歩くこと」を起点とする・・・それを公共交通で補完するという取り組みは、その地方の特性を捉えたものであり、なによりも公共交通の充実とコンパクトなまちの実現が必要であろうと思えます。「徒歩」という手段をいかに有効に活用するのか再考する必要があります。

#### 5. 高尾代表理事

・非常勤の特別職で次長級とのことであり、縦割りの行政組織の中でいかに調整作業が行われているのか、その具体例が聞きたかったところですが、まちの景観というところでの役割を果たす立場でもあり、その分野に限られるというところで機能する事なのかもしれません。

・「問い」を投げかけること・・・何故そのように考えるのか・・・我々も常に考えていかなければならないことであろうと思えます。そこには、より良い答えを導き出す契機があるものと思えます。

#### 6. 行政視察に参加

・長崎市恐竜博物館と軍艦島資料館を見学しました。市の中心部から約一時間弱のところであり、軍艦島がとてもよく見えるところがありました。

・海岸部に公園を併設する形で施設があり、長崎で「恐竜」という意義がよく理解できる展示でした。

・また軍艦島に関する歴史資料も分かりやすく展示されており、一度は訪ねてみたいという気持ちにさせられるものでした。



# 行程表

乗り換え案内ジョルダン <http://www.jordan.co.jp/>

※往復利用の場合は、往復料金を入力してください。

| 日付                           | 出発駅             | 交通手段 | 片道/往復 | 到着駅  | 距離           |    | 交通費    |      |   |
|------------------------------|-----------------|------|-------|------|--------------|----|--------|------|---|
|                              |                 |      |       |      |              |    | 運賃     | 特急料金 | 等 |
| 4<br>年<br>10<br>月<br>12<br>日 | 中部国際空港          | 飛行機  | 片道    | 熊本空港 | 603          | km | 31,640 | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |      |              | km |        | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |      |              | km |        | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |      |              | km |        | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |      |              | km |        | 円    | 円 |
| 宿泊先名称                        |                 |      |       |      | TEL          |    | 宿泊料金   |      |   |
| 日付                           | ANAクラウンプラザホテル長崎 |      |       |      | 095-818-6601 |    | 円      |      |   |
| 備考欄                          |                 |      |       |      |              |    |        |      |   |

31,640 円

| 日付                           | 出発駅             | 交通手段 | 片道/往復 | 到着駅 | 距離           |    | 交通費  |      |   |
|------------------------------|-----------------|------|-------|-----|--------------|----|------|------|---|
|                              |                 |      |       |     |              |    | 運賃   | 特急料金 | 等 |
| 4<br>年<br>10<br>月<br>13<br>日 |                 |      |       |     |              | km |      | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |     |              | km |      | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |     |              | km |      | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |     |              | km |      | 円    | 円 |
|                              |                 |      |       |     |              | km |      | 円    | 円 |
| 宿泊先名称                        |                 |      |       |     | TEL          |    | 宿泊料金 |      |   |
| 日付                           | ANAクラウンプラザホテル長崎 |      |       |     | 095-818-6601 |    | 円    |      |   |
| 備考欄                          |                 |      |       |     |              |    |      |      |   |

小計 0 円

| 日付                           | 出発駅      | 交通手段 | 片道/往復 | 到着駅    | 距離  |    | 交通費    |      |   |
|------------------------------|----------|------|-------|--------|-----|----|--------|------|---|
|                              |          |      |       |        |     |    | 運賃     | 特急料金 | 等 |
| 4<br>年<br>10<br>月<br>14<br>日 | 長崎駅ターミナル | バス   | 片道    | 長崎空港   |     | km | 1,000  | 円    | 円 |
|                              | 長崎空港     | 飛行機  | 片道    | 中部国際空港 | 671 | km | 34,240 | 円    | 円 |
|                              |          |      |       |        |     | km |        | 円    | 円 |
|                              |          |      |       |        |     | km |        | 円    | 円 |
|                              |          |      |       |        |     | km |        | 円    | 円 |
| 宿泊先名称                        |          |      |       |        | TEL |    | 宿泊料金   |      |   |
| 日付                           |          |      |       |        |     |    | 円      |      |   |
| 備考欄                          |          |      |       |        |     |    |        |      |   |

バック等による割引など

小計 35,240 円

5,190 円

宿泊費 合計

交通費 合計

0 円

66,880 円

申請額合計  
(宿泊費+交通費-割引代)

61,690 円